

第40回和光中学校・高等学校 教育研究集会案内

——子どもの健やかな発達を願う父母と教師の研究会——

主題 参加と共同による学校づくり・授業づくり

2011年11月20日(日)

8:30	9:00	9:30	10:15	11:30	12:30	15:30	16:30	17:30
受付	初めの会	公開授業	授業検討会	お昼休み	分科会	まよめの全体会	懇親会	

和光中学・高等学校

〒195-0051 東京都町田市真光寺町1291

☎(042)734-3401~3

- 和光幼稚園 世田谷区桜2-18-18 ☎03-3420-4352
- 和光鶴川幼稚園 町田市真光寺町1271-1 ☎042-735-2291
- 和光小学校 世田谷区桜2-18-18 ☎03-3420-4353
- 和光鶴川小学校 町田市真光寺町1282-1 ☎042-736-0036
- 和光大学 町田市金井2160 ☎044-988-1431~5
- 法人事務局 町田市金井2160 ☎044-986-6500

「共に学ぶ場」としての和光教研を

和光中学・高等学校 校長 両角 憲二

東京都教育委員会は2001年に日比谷高校、西高校など4校を「進学指導重点校」（独自入試実施）に指定して「都立名門校の復活」計画をスタートさせ、さらに07年度には「進学指導特別推進校」5校を指定しました。10年6月には予備校が「特別推進校」と中高一貫校に助言指導する制度をスタートさせ、また、「特別推進校」から「重点校」への昇格とその逆の降格をセットで制度化しました。11年度大学入試における都立高校からの東大合格者数は計99人となりました。10年前とは隔世の感があります。

多くの私学が大学合格実績を競いつつ、公立学校に対する優位性を強調してきましたが、今や「東大に入りたければ、私立中高一貫校に行くしかない」という図式は崩れつつあります。10・11年度入試で公私入り乱れての高偏差値生徒の争奪戦が展開されていたのです。中学・高校受験地図は地殻変動ともいえる大きな動き=混乱のなかで塗りかえられることでしょう。

和光は、そうした地殻変動にまきこまれずに立ちつづけることができるのでしょうか？競争主義教育の対抗軸として「学ぶことは絶対的な楽しみ・喜び」「共に幸福になるために、共に学ぶ」という学び、管理主義教育の対抗軸として生徒主体の自治活動を据え、たとえ不十分な実践であろうと進化しつづけていることを発信することによって、それは十分可能だと考えています。その発信の場が、学校説明会であり、和光教研です。それを積み重ねていくなかで、「学校はやっぱり和光のようであれば」と広く言われる日が来ると信じています。

東日本大震災と福島原子力発電所事故を通じて、生きることの意味、学ぶことの意味が問い直されています。キーワードとして「共に」が多く使われていますが、和光には「共に」があふれています。

11年和光教研が、参加者のみなさんと私たちとの「共に学ぶ場」となることを願っています。いくつもの「共に」をつくりたいと思います。是非、ご参加ください。

授 業 公 開

高校選択授業

A1	ひととことば	関根 ちひろ
	聞き書き	
B1	化学A	氷見 康太郎
	電気分解	
B1	演劇	高山 昇
	創作寸劇の再演に向けて～自分たちで演じたビデオを見て、創りなおしていく過程～	
B1	デザイン	高橋 拓也
	色彩による平面構成	
B1	口語英語	内藤 美紀 Jonathan Basallo
	グループごとに旅をテーマにプレゼンテーションを試みます。(今年初めての試みです)	
B1	現代史	佐々木 太郎
	現代の問題を考える	

中学1年生必修4クラス

保健	飯田 潔美
	人間の生き方に関する性の様々な課題を生徒のレポート発表を行いながら学習する
数学	佐藤 英次
	連立方程式の文章問題「トンネルと列車の長さを求める」
国語	寄藤 正
	論理的な文章「動物の睡眠と暮らし」(加藤由子)を読む
美術	藤井 依子
	アートグラスをつくる ～線の表現～

※授業内テーマは当日までの授業進度により、変更の可能性があります。

分科会とその内容 (12:30 ~ 15:30)

分科会テーマ		
第1分科会	<p>『中学1年生の指導で大切にしていること』</p> <p>中学校に入学した一年生は、教科担任制への変化や複数の教科での教室移動、学習内容の深まり、新しく出会う友達との人間関係に期待と共に戸惑いも抱えながら生活しています。一方、和光学園内部から進学してくる生徒、外部の私立・公立から進学してくる生徒にはそれぞれの既有知識、文化、人間関係の距離感やトラブルの解決方法があります。和光中学校では中学一年生に学年全体で共通の指導をしています。和光中学校の学年の取り組みを紹介します。</p> <p>また、教科学習の中でつまずいているかもしれない生徒に教員は気付いているのか、また、どうしたら小学校から中学校へのなめらかな接続ができるのか、一年生での実践を紹介しながら皆さんと一緒に考えていきたいと思います。</p>	<p>報告者 星野 実 青柳 貴宏 (和光中学校)</p> <p>助言者 山岡 雅博 (立命館大学)</p>
第2分科会	<p>「秋田学習旅行」とは 人と文化と労働と、そして自己との出会い</p> <p>2年の9月末に行われる5泊6日の「秋田学習旅行」は35年以上も続き毎年の生徒たちに熱く支持され、受け継がれている伝統の行事です。田園地帯の中に本拠を構える「わらび座」を宿舎に、2日間はわらび座で踊りと太鼓を習いクラスの「祭り」を創る。3日間は生活班毎に27軒の農家に迎えられ、稲刈りを中心とした農作業と農家を体験・学習します。</p> <p>東京の中学生がはじめて出会う農村地域、民族文化、農業と農家などに鮮烈な刺激を受け、民族の文化や農業の大切さや今日的状況を身をもって学びます。そして何よりもそこに生きるわらび座や農家の人たちとの奥の深い交流が生まれます。また、この体験や交流は生徒だけのものでなく、農家の人たちにとっても得難い財産になっています。中学生とわらび座と農家が一体となって創る行事です。</p> <p>この旅行の準備・運営は、実行委員会をつくり、自治的に準備され、来る年のリーダー学年にむかっの学習の場ともなります。</p> <p>以上のような学習旅行を紹介し、みなさんでご検討願えればと思っています。</p>	<p>報告者 大和 繁 (和光中学校)</p> <p>助言者 阿部 英之介 (東洋大学非常勤講師)</p>
第3分科会	<p>幼小中高を見通した生物学教育課程</p> <p>小中高校の合同理科部会では、今年度から4年かかりで小中高校を見通した一貫の教科カリキュラムをつくっていくことになりました。今年度はまず、生物分野の内容に関して、それぞれの学校段階で、何をどこまで学習させるかを検討します。また、小学校からの生物学教育を豊かなものにするため、幼稚園ではどのような生き物との出会い・体験を用意したらよいのか、その内容も検討します。</p> <p>小4までは、生物学の基礎的・基本的な法則や概念に結びつく豊かな個別認識を深めることが目標になるでしょう。小学校高学年より法則的な学習を始め、生物の個体レベルの法則や概念を「食べる」「ふえる」ことを中心に現象的に学習させ、中学校では生物現象を細胞レベルや生態系レベルでとらえなおし、より本質的に理解させることが目標になるでしょう。そして準義務教育である高校の初年級における必修授業では、生命現象を分子レベルでとらえなおすことが主な目標になると考えています。</p> <p>参加者の皆様にご検討いただきたいと思います。</p>	<p>報告者 山崎 慶太 (和光高校)</p> <p>助言者 鷹取 健 (自然科学教育研究所)</p>
第4分科会	<p>和光高校の選択授業「A1・海洋研究」6年間の歩み</p> <p>和光高校では多数の選択講座が用意されています。それが学びの特色となっています。2年生の4つの選択枠(A1・2+B1・2)に44講座、3年生では10の選択枠(C1~9+S)に78講座が開かれています。それぞれに特色をもった選択枠になっていますが、A1は3泊4日の研究旅行を行うという点で他の選択枠と一線を画しています。</p> <p>私は、A1・12講座のうちのひとつ「海洋研究」を、06年度から担当しています。「なぜ?」「どうして?」「本当か?」を大切に、専門家、専門機関、漁業者の力を借りて、その謎解きと新たな発見を生徒といっしょに楽しんでいます。研究旅行は、伊豆・城ヶ崎海岸でダイビング実習中心に行っています。</p> <p>06年度からの「海洋研究」の歩みをふりかえりつつ、学びの質を問い直したいと思っています。</p>	<p>報告者 両角 憲二 (和光高校)</p> <p>助言者 小玉 重夫 (東京大学)</p>

和光学園について

和光学園は、1933年(昭和8年)に成城学園から分かれ、和光学園小学校として世田谷経堂の地に設立されました。いわゆる「成城事件」の中で、成城学園創学当時の「新教育」の伝統を守ろうとする父母・教師が中心になって創立したものです。

和光学園にとっては、太平洋戦争の時期はまさにいばらのみちでした。しかし、戦後は、海後勝雄を校長に迎え、石山脩平・梅根悟らの理論家を顧問としてコア・カリキュラム連盟(現在の日本生活教育連盟)の実験学校になり、戦後の「新教育」を発展させる学校として全国から注目されることになりました。

その後、春田正治校長、丸木政臣校長によって着実な教育づくりが進められるとともに、1966年には、梅根悟を東京教育大学から迎えて、念願の和光大学を発足させ、名実ともに幼稚園から大学にいたる一貫教育が実現することになりました。

和光中学・高等学校への 交通機関および略図

- 小田急線……鶴川駅下車
バス：鶴川団地行き(2番乗場)
折返し場下車
- 京王相模原線……若葉台駅下車
バス：鶴川駅行き
和光学園下車
- ◎バスの本数が少ないので余裕を持っておいで下さい。発車時刻をお知りになりたい方は下記問い合わせ先までお願いいたします。



- 申 込 み 締切り 11月19日(土)
- 問 い 合 わ せ 電話 042-734-3401
- FAX申込み 042-734-3410
- 和光学園ホームページ <http://www.wako.ed.jp/> から和光中学または高校のページに入り、7月25日から申し込みフォームを使って申し込みます。
- メールを利用される方は、メールアドレス kyoken@wako.ed.jp から下記の「申込書」の内容に従ってお申し込みください。
- 参 加 費 1000円(大学生500円)～当日受付けで
- 昼 食 昼食が必要な方は事前にお申し込みください(代金1000円は当日受付けで)。学校近辺にはコンビニエンスストアもあります。

※「公開授業」見学だけを希望される方は、無料でご参加いただけます。

第40回 和光教育研究集会 申込書 (キリトリ線)

氏 名	一般、和光保護者、学生、教員、()	「公開授業のみ参加」 (○印)			
住 所 〒		希望分科会 (○印)			
電 話		1	2	3	4
		昼 食 (○印)		1. 申込む 2. 不 要	